

第31回報農会シンポジウム

『植物保護ハイビジョン — 2016』のご案内

— 変わる農業が抱える諸課題に挑む —

趣 旨：公益財団法人報農会は、毎年開催するシンポジウム「植物保護ハイビジョン」で、その時々
の植物防疫に係わる課題を取り上げてきた。今回は、大きく変わりつつあるわが国の農業が
抱える重要課題の中から、農業後継者の不足とそれに関連する諸問題に焦点を当てる。こ
れらの現状をくわしく紹介するとともに、有望な対策法として、省力的かつIPMと矛盾しな
い新防除技術の開発、並びに日本の特徴を生かした農産物の輸出拡大の可能性を探る。

主 催：公益財団法人 報 農 会

協 賛：日本応用動物昆虫学会，日本植物病理学会，日本農薬学会，日本雑草学会

日 時：平成28年9月14日(水) 10:15～17:00

場 所：「北とびあ」つつじホール（東京都北区王子1-11-1）

TEL 03-5390-1100（会場への連絡は出来ません）

JR 京浜東北線・地下鉄南北線：王子駅下車，徒歩2分（下図参照）

開 会：10:15～10:30 挨拶 理事長 田付 貞洋

講 演：10:30～11:20 耕作放棄地と農地集積が植物保護に及ぼす影響

農研機構農業環境変動研究センター 山中 武彦

11:20～12:10 近年多発する獣害について — シカ・アライグマ・イノシシー

森林総合研究所野生動物研究領域 岡 輝樹

12:10～13:20 昼食・休憩

13:20～14:10 航空防除の変遷，現状と課題

一般社団法人 農林水産航空協会 森田 征士

14:10～15:00 超音波を利用した物理的害虫防除技術

徳島県立農林水産総合技術支援センター 小池 明

15:10～16:00 栃木県における農産物輸出に関する取組について

栃木県農政部 高崎 正

16:05～16:45 総合討論

参加費：一般 2,000 円 学生 1,000 円

申込み：参加をご希望の方は、9月7日までに下記連絡先までEメールまたはFAXで所属・
連絡先と氏名をお知らせ下さい。当日、参加費と引き換えにテキストをお渡し致しま
す。なお、当日の参加も可能です。

連絡先：公益財団法人 報 農 会

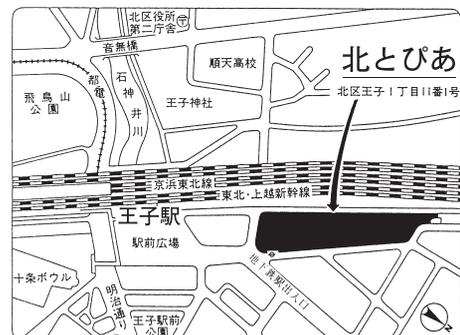
事務局 藤田 肖子，渡邊 敦子

〒187-0003 東京都小平市花小金井南町 1-12-11

BLOSSOM みさと

TEL/FAX 042-452-7773

E-mail: khono511@car.ocn.ne.jp



功績者表彰式のお知らせ

シンポジウム終了後、会場を16階に移して植物防疫の発展に寄与された功績者の表彰式及び祝賀会を開催いたします。シンポジウム参加者は、無料でご参加いただけますので、お時間の許す方は是非ご出席の上、祝福を賜りたくご案内申し上げます。

開催日時 平成28年9月14日(水) 17:00～

開催場所 「北とぴあ」16階(天覧の間)

第31回功労賞受賞者(3名:五十音順)

伊 東 祐 孝 氏 (いとう すけたか)

職 歴 神奈川県園芸試験場, 同県病害虫防除所等

業 績 ○カキノヘタムシガ成虫が水銀灯の予察灯に誘殺されることから、発生時期の予察法を開発することで、適期防除の確立に貢献された。

○クリの重要害虫モモノゴマダラノメイガの発生生態を明らかにし防除法の確立に貢献された。

○三浦半島に初発生したキャベツ根こぶ病の蔓延防止に奮闘された。

落 合 政 文 氏 (おちあい まさふみ)

職 歴 福島県果樹試験場, 同県農業短期大学校等

業 績 ○リンゴの主要病害である斑点落葉病の発生生態の解明と薬剤耐性菌に対する対策を確立し、防除に貢献された。

○モモ灰星病の発生生態を解明し、防除法を確立された。

○モモせん孔細菌病の発生生態と防除法の研究に取り組み、その研究成果に基づいた解説書により全国のモモ産地への技術普及に貢献された。

高 橋 佑 治 氏 (たかはし ゆうじ)

職 歴 秋田県果樹試験場, (一社)日本植物防疫協会

業 績 ○リンゴの主要害虫のモモシンクイガ, ハマキムシ類, ハダニ類, クワコナカイガラムシ等の適期防除の励行と防除経費の低減化に貢献された。

○リンゴ害虫の発生予察と防除薬剤の検討を行い、安定的な無袋栽培を実現された。

○果樹ハダニ類の薬剤抵抗に関する研究で、圃場での簡易検定法を実証し、生産現場での効率的な防除体系を確立された。